

# ネット利用状況と情報リテラシ

Internet use and Information Literacy

小林 健一郎                      永田 奈央美  
Ken-ichiro KOBAYASHI      Naomi NAGATA  
内藤 旭恵                      高橋 等  
Akie NAITO                      Hitoshi TAKAHASHI

(平成29年10月2日受理)

## 要旨

ネットの利用状況と情報リテラシの関係を調べた。特に、PCメールと情報リテラシの相関が経年的に変化しており、現在は、PCメールの利用頻度が高い学生ほど情報リテラシが高いことが分かった。

## 1. 序論

本学では、過去2回、ネットの利用状況と情報リテラシを調べた<sup>[1][2]</sup>。  
第1回目の調査(1998)では、次のことがわかった。

1. 電子メール(PCメール)の使用頻度が入学直後から急激に上がる。
2. 電子メールの使用頻度が高い学生ほどパソコンを好んでいる。
3. 電子メールの使用頻度が高い学生ほどキー入力を得意とする。
4. 「講義でメールを使う」、「講義でWWWページを見る」、「講義以外でメールを頻繁に使う」に強い相関がある。

1998年当時、電子メールと言えば、PCメールであり、その普及もまだ途上であった。そのため、電子メールと情報リテラシに相関があるというのは自然な事だった。

PCメールの利用頻度が高い学生ほど情報リテラシが高いことがわかった(相関係数  $r=0.28$ )。一方、第2回目の調査(2006年)では、

1. 携帯メールの使用頻度と情報リテラシに関連はない。
2. 成績優秀者の方が頻繁にWWWページを閲覧している。

という結果が得られた。この当時は、携帯メールがネットを介したコミュニケーションの主流になり、またWWWページの閲覧も一般的になってきており、上記の結果は興味深いものであった。

一方、PCメールの使用頻度と情報リテラシとの間に相関はあるが弱いものだった(相

関係数  $r = 0.12$ )。実際、成績評価別のPCメールの1週間の使用頻度の平均は、Aの学生1.9回、Bの学生1.5回、Cの学生2.2回、Dの学生0.5回である。(携帯メールの1週間の使用頻度の平均は4.8回である。)

今回の調査も、これまでと同様、情報教育向上のための資料として行われたものである。しかし、これまでの結果と比較し、2017年度の傾向を見ることも興味深い。ただし、携帯電話等「なかったものが現れる」など状況は常に変化しており、厳密に同じ調査にはなり得なかった。

## 2. 調査方法

特設したWWWページにて、アンケートと情報リテラシテストを行い両者を比較した。この方法では学生が特定できるので、詳細なデータとなる。

アンケート調査の内容は巻末資料1の通りである。また、テストは巻末資料2の通りである。テストの内容のほとんどは本学講義で教えているものである。

## 3. 調査結果

アンケート回答者・テスト解答者は92名で、テストでは問3を除く9点満点の平均点は4.5点であった。すべて大学1年生であるが、そのうち17名は本学特待生である。そのため、一般学生75名と特待生17名に分けてまとめた。以下で見るように、傾向は同じだが、特待生の方が傾向がはっきり見えることが多かった。なお、項目によって入力为正しくないケースがあり、有効回答数は、上記の人数と一致しないこともある。また、特待生の数は少ないため統計的な有効性には注意が必要であることは言うまでもない。

### 3. 1 学校メールとの関連

まず、PCメール(学校で与えたものなので、以下では、学校メールと書く)の使用頻度別の平均点は次のようになる。

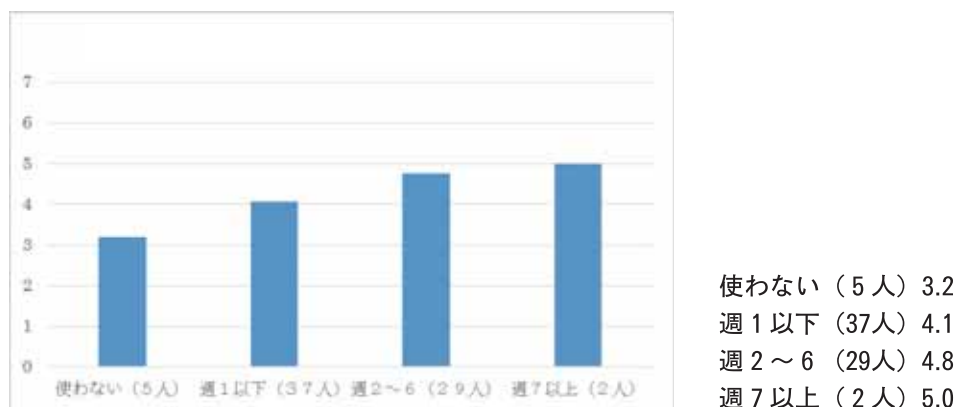
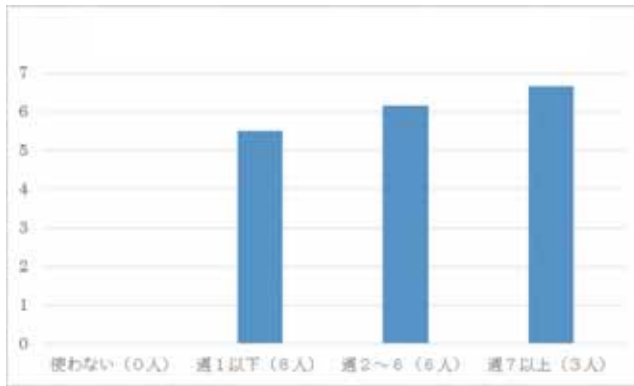


図1 学校メール使用頻度別平均点(一般学生)



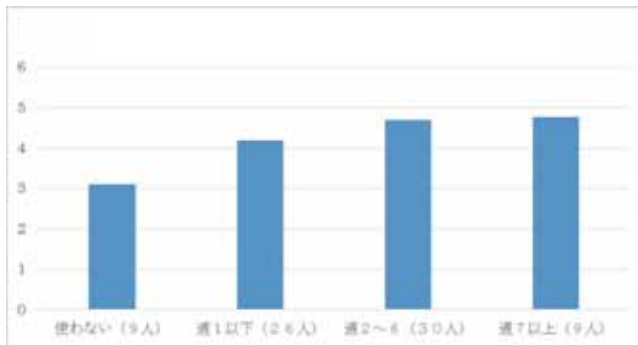
使わない (0人) 0  
 週1以下 (8人) 5.5  
 週2～6 (6人) 6.2  
 週7以上 (3人) 6.7

図2 学校メール使用頻度別平均点 (特待生)

いずれにしても、学校メールを利用する学生の方が点数が高い傾向にある (相関係数一般学生  $r=0.28$ 、特待生  $r=0.29$ )。

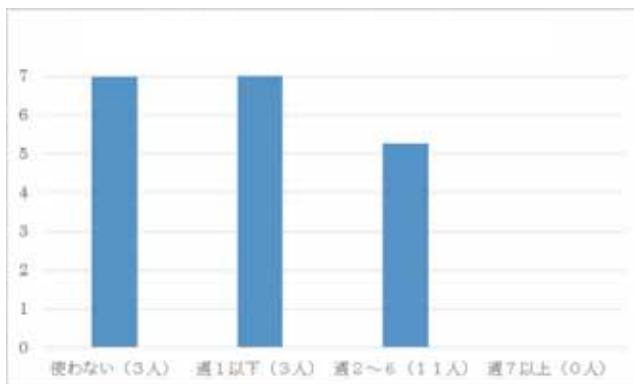
### 3. 2 携帯メールとの関連

携帯メールに関しては次のようになった。



使わない (9人) 3.1  
 週1以下 (26人) 4.2  
 週2～6 (30人) 4.7  
 週7以上 (9人) 4.8

図3 携帯メールの使用頻度別平均点 (一般学生)



使わない (3人) 7.0  
 週1以下 (3人) 7.3  
 週2～6 (11人) 5.3  
 週7以上 (0人) 0.0

図4 携帯メールの使用頻度別平均点 (特待生)

特待生のみを見ると、「携帯メールを頻繁に利用する学生の方が情報リテラシが低い」という結果になる。一般学生とあわせて考えると「相関は低い」となるだろう（相関係数一般学生  $r=0.12$ 、特待生  $r=-0.2$ ）。

### 3. 3 ネットコミュニケーション全般との関連

最近、メール以外のコミュニケーションツールの方がより多く使われている。そこで、ネットコミュニケーション全般としてまとめると次のようになる。

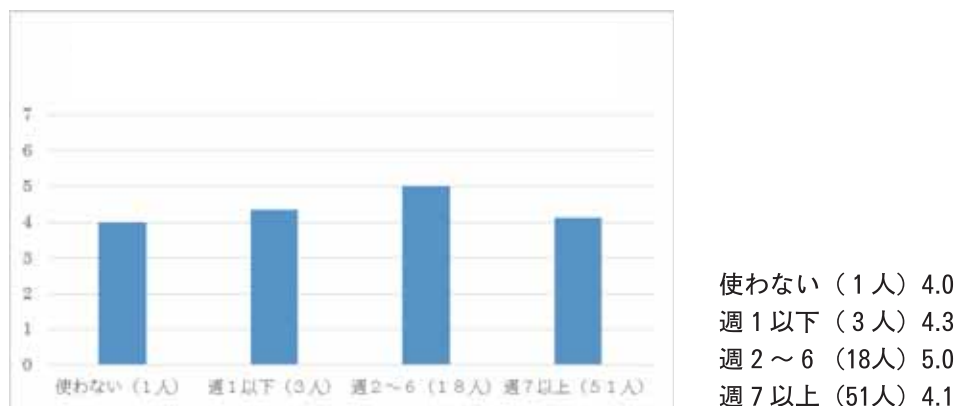


図5 ネットコミュニケーション使用頻度別平均点（一般学生）

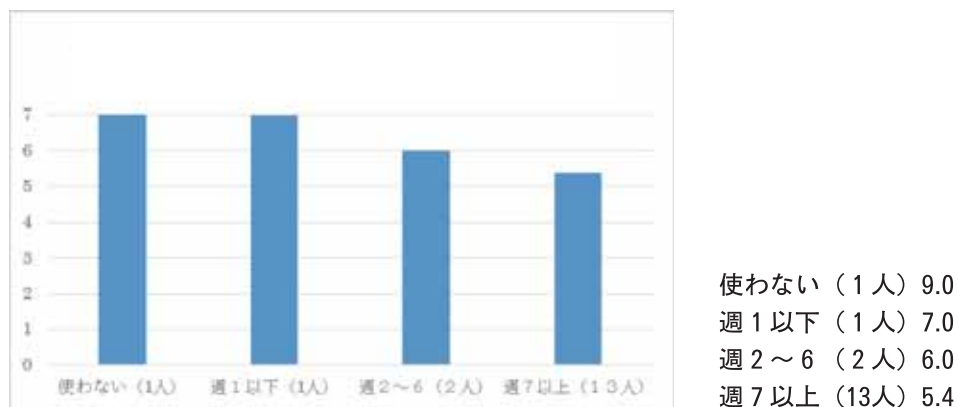


図6 ネットコミュニケーション使用頻度別平均点（特待生）

傾向は携帯メールと同じで「逆の相関か、弱い相関」である。

### 3. 4 WEB閲覧との関連

WEB閲覧では次のようになった。

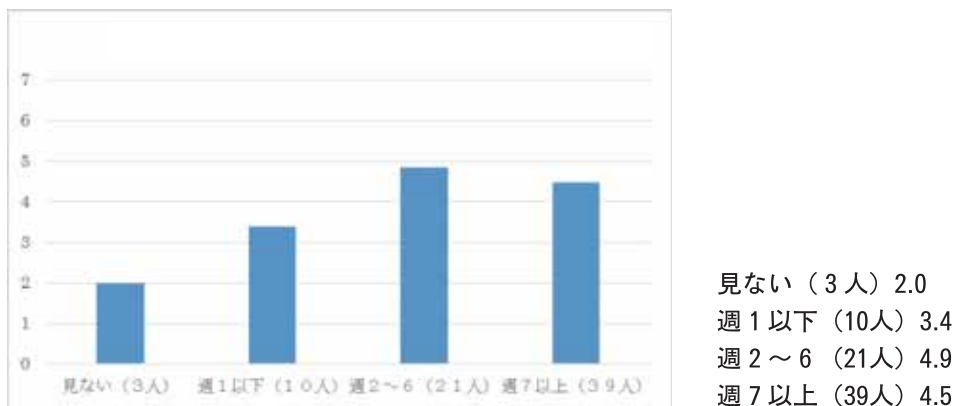


図7 WEB閲覧数別平均点 (一般学生)

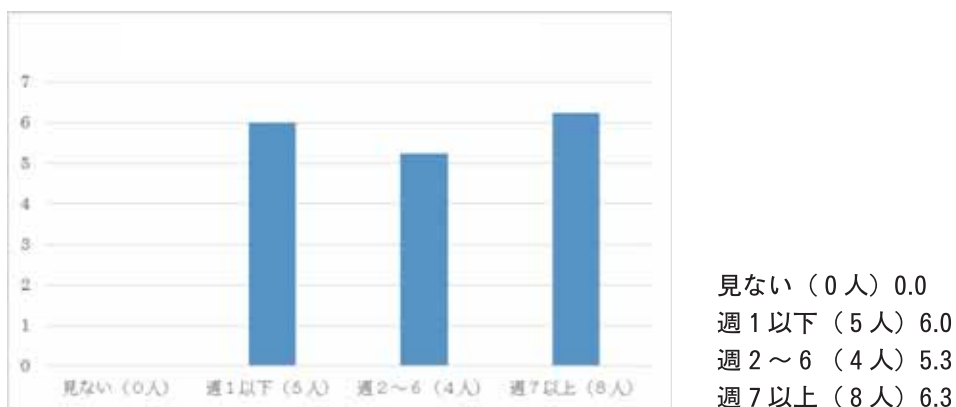


図8 WEB閲覧数別平均点 (特待生)

これも相関は低いと言えるだろう (相関係数 一般学生  $r=0.15$ 、特待生  $r=0.05$ )。ただ、一般学生でWEBの閲覧が極端に少ない学生は情報リテラシも低い傾向にあると言えるかもしれない。

なお、ネット検索の目的も聞いた。

表1 ネット検索の目的 (一般学生)

	検索する学生	検索しない学生
一般	4.7 (65名)	2.9 (10名)
授業関係	4.5 (24名)	4.3 (51名)
科学情報関係	4.5 (19名)	4.3 (56名)

表2 ネット検索の目的（特待生）

	検索する学生	検索しない学生
一般	6.1（12名）	5.6（5名）
授業関係	5.8（10名）	6.1（7名）
科学情報関係	6.5（4名）	5.8（13名）

一般学生では「一般的な意味のわからない言葉を検索する学生」がそうでない学生より顕著に成績がよい。特待生ではそれほど顕著ではないが、同様の傾向がある。

一方「授業関係の検索をする学生」の成績がそうでない学生と比べて特に良いわけではないことが興味深い。著者らは、ここに大きな違いが出るのではと予想していたのである。

#### 4. 結論

今回の結果で特筆すべきことは以下のようになる。

1. 学校メール（PCメール）の使用頻度の高い学生は情報リテラシも高い傾向にある。
2. 携帯メールや他のコミュニケーションツールの使用頻度と情報リテラシにはあまり相関がない。
3. WEBの閲覧頻度と情報リテラシにも強い相関は見られない。  
（しかし、WEBをほとんど見ない学生の情報リテラシは低い。）
4. 一般学生で「一般的な意味のわからない言葉を検索する学生」に情報リテラシが高い傾向がある。（授業関連の検索とは相関が低い。）

#### 謝辞

アンケートに協力してくれた学生諸君に感謝したい。

#### 参考文献

- [1] 宮崎佳典、天野利彦、樽松直樹、小林健一郎、高橋恒介「メールの利用状況等に関するアンケート調査」平成10年度情報処理教育研究集会 1998年
- [2] 小林 健一郎、柿山 浩一郎「メール・WWWの利用と情報リテラシ」静岡産業大学情報学部紀要第8号2006年 p167-p176

### 資料1 アンケート

問 学校のメール（f学籍番号@ssu.ac.jp）の使用頻度（メールソフトを開く頻度）を教えてください。

授業で使う場合も含めます。

- 使わない。
- 使うけれど、1週間に1度程度か、それ以下。
- 1週間に2度程度 ～ 1週間に6度程度。
- 1週間に7度程度か、それ以上。

問 携帯電話・スマホなどの個人のメールの使用頻度（メールソフトを開く頻度）を教えてください。

- 使わない。
- 使うけれど、1週間に1度程度かそれ以下。
- 1週間に2度程度 ～ 1週間に6度程度。
- 1週間に7度程度以上。

問 WEBページ（動画サイトやネットゲームは含めません）の閲覧頻度を教えてください。

- 見ない。
- 見るけれど、1週間に1度程度か、それ以下。
- 1週間に2度程度 ～ 1週間に6度程度。
- 1週間に7度程度か、それ以上。

問 ライン、インスタグラム等、ネットを使ったコミュニケーションツールの使用頻度を教えてください。

上記のメールもすべて含めて考えてください。

- 使わない。
- 使うけれど、1週間に1度程度か、それ以下。
- 1週間に2度程度 ～ 1週間に6度程度。
- 1週間に7度程度か、それ以上。

問 ネット（動画サイトやネットゲームも含めます）の使用頻度を教えてください。

- 使わない。
- 使うけれど、1週間に1度程度か、それ以下。
- 1週間に2度程度 ～ 1週間に6度程度。
- 1週間に7度程度か、それ以上。

問 パソコン・スマホ等でネット検索するものを選んでください（複数選択可）。

検索しない場合は、何も選ばなくてかまいません。

- 一般的な意味のわからない言葉。
- 講義や演習ででてきたわかりにくい事。

- 科学や情報関係。
- 選挙や外国の政情など、一般的なニュース（芸能関係を除く）。
- 芸能人情報やチケット発売日など、芸能・エンタテインメント関係。
- その他

## 資料2 テスト

問 一般的な「情報リテラシ」の定義として、もっともふさわしいものを選びなさい。

- 1 プログラミング能力。
- 2 情報活動を行う能力。
- 3 情報機器やアプリを使う能力。
- 4 コミュニケーション能力。

問 PDCAのC意味として、もっともふさわしいものを選びなさい。

- 1 立案・目標設定
- 2 実施・実行
- 3 伝達・連絡
- 4 評価・反省

問 一般的に利用できるネット以外の情報源を3つ挙げなさい。

問 時系列データの推移を表すのに、もっともふさわしいものを選びなさい。

- 1 円グラフ
- 2 散布図
- 3 折れ線グラフ
- 4 レーダーチャート

問 情報機器（ハードウェア）の構成要素としてふさわしくないものを選びなさい。

- 1 プリンタ
- 2 CPU
- 3 ホームページ
- 4 ディスプレイ

問 情報の基本単位としてもっとも小さいものを選びなさい。

- 1 バイト
- 2 ビット
- 3 ピコ
- 4 ヘルツ

問 ソフトウェアの定義として、もっともふさわしいものを選びなさい。

- 1 コンピュータ全般。



- 2 OSやアプリケーションなど、ハードウェアでないもの全般。
- 3 ハードウェアでないもので、アプリケーション全般。
- 4 ネットとは独立したアプリケーションのみ。

問 2進数の計算として正しいものを選びなさい。

- 1  $10 + 10 = 11$
- 2  $10 + 10 = 100$
- 3  $10 + 10 = 110$
- 4  $10 + 10 = 1010$

問 チーム活動におけるアイスブレイキングの1例としてふさわしいもの選べ。

- 1 実行可能性を気にせずアイデアを出し合う。
- 2 リーダー等の役割を投票で決める。
- 3 顔で自己紹介をしあう。
- 4 プロジェクトマネジメント。

問 プロジェクト管理や生産管理などで工程管理に用いられる表を何と言うか、もっともふさわしいものを選びなさい。

- 1 フローチャート
- 2 ガントチャート
- 3 ステートチャート
- 4 プロジェクトマネジメント